

「大津漁協LGL活動等における救命胴衣着用推進活動」

～救命胴衣の普及着用率向上を目指して～

茨城海上保安部は、平成30年10月25日、茨城県北茨城市漁業歴史資料館（よう・そろー会議室）及び大津漁港前面海域において、大津漁業協同組合関係者等約35名に対し「救命胴衣着用推進活動」を実施しました。

本活動は、大津漁業協同組合LGL活動¹の一環として、同漁協関係者への救命胴衣着用推進活動の普及展開、並びに本年度から同漁協所属漁船に乗船するインドネシア人初任者漁業研究生を対象に救命胴衣の種類、着用方法等、有効性を説明し、船舶からの海中転落状況を再現し、救命胴衣の必要性・重要性を再認識させるとともに漁船員への救命胴衣の普及着用率向上を図ることを目的として実施したものです。



救命胴衣展張体験



海中転落の再現状況



記念撮影

¹ LGL活動

全国の海上保安部署等から委嘱を受けたライフジャケット着用推進員（LIFE GUARD LADIES(頭文字をとってLGLと称している))が漁業関係者を対象としたライフジャケット着用率向上を目指す活動